

機能性消化管障害外来

診療内容

1. 胃もたれ、胃の痛み、食欲低下・・・「機能性ディスぺプシア」(FD)

機能性ディスぺプシア(FD)とは、胃もたれ、胃の痛み、膨満感、吐き気に代表される腹部症状を持ちながら、症状の原因となる器質的な異常(胃潰瘍や胃がん、胆石等)が無い場合に診断されます。機能性ディスぺプシア(FD)は胃・十二指腸の運動異常や知覚過敏などの機能的な問題や、ストレスなど心理社会的因子に影響される疾患とされています。診断のためには上部消化管内視鏡検査が必要となりますが、可能であれば腹部超音波検査も受けていただきたいと思います。

治療については薬物療法が主になりますが、心理的要因の解決も重要です。症状改善には数か月を要する場合がありますので継続的な通院治療が必要です。

2. 繰り返す便秘、下痢、腹痛・・・「過敏性腸症候群」(IBS)

過敏性腸症候群(IBS)とは、持続または再発する腹痛を伴う便通障害(下痢、便秘)がありながら症状の原因となる器質的な異常(小腸・大腸の潰瘍や炎症、がん等)が無い場合に診断されます。過敏性腸症候群(IBS)の原因としては主に急性腸炎後の持続する軽微な腸炎や、心理的要因が関わっていると推測されています。診断のためには下部消化管内視鏡検査や大腸X線検査にて器質性疾患を否定する必要があります。特に高齢者や、血便・体重減少など警告症状がある方は必須です。

治療は薬物療法が主になりますが、生活や習慣の改善が必要となることもあります。また心理的要因の解決も治療には重要です。

3. 胸やけ、酸逆流症状など・・・「非びらん性胃食道逆流症」(NERD)

胸痛や胸やけ、呑酸症状による食道胃逆流症の症状がある方で、内視鏡検査で食道粘膜のただれや発赤などの炎症初見が見られず、逆流症状が持続する場合に診断されます。治療の前に内視鏡検査が必要です。

治療は酸分泌抑制薬や、消化管運動改善薬などの薬物投与が中心となりますが、生活習慣の改善も重要です。心理的要因が働いていると思われる場合はその解決が必要です。

4. 慢性便秘

慢性便秘にも様々な原因がありますが、腸炎や腸管狭窄、腸閉塞、腸管圧迫など明らかな器質的な疾患がなければ薬物治療が中心の治療となります。近年は従来あった腸管運動促進薬や緩下剤以外に腸管粘膜上皮機能変容薬や胆汁酸トランスポーター阻害薬などの種類があります。当外来では、これらの数種類の薬剤を用いて治療を考えています。

5. 慢性肝疾患

慢性肝炎や肝機能障害などの診療も行っています。

6. その他

その他、機能性胸やけなどの機能性消化管障害や酸関連疾患の診療も行っています。

スタッフ紹介

名前	専門分野	資格
 屋嘉比 康治	消化管疾患 酸関連疾患 機能性消化管障害	日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化管学会専門医
 山口 菜緒美	消化器疾患 消化管ホルモン	日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓病学会専門医

診療担当医表

平成 31 年 4 月 15 日現在

		月	火	水	木	金	土
午前 (9:00~11:30)	1		屋嘉比康治		屋嘉比康治	屋嘉比康治	山口菜緒美
	2		山口菜緒美		山口菜緒美	山口菜緒美	
午後 (14:00~16:30)	1		屋嘉比康治				
	2		山口菜緒美				